

水泳部

水泳の試合会場に行くとき一際日焼けした集団。他の公立高校より練習量が多いのは見た目でも分かりました。50mの屋外プールで4月は震えながら、真夏はお湯みたいな水温にのぼせながら水道水を頭にかぶって火照りを抑えながら、必死に泳いでいました。インターハイ出場という目標に向かって皆が厳しい練習に耐えておりました。OB会で集まった際には最終的にいつも同じような話になりますが、それでも飽きないということはそれだけあの日々が自分たちの中で大きかったのだと思っています。今年度の生徒は残念ながらコロナウィルスの流行によりすべての競技会が中止、もちろんインターハイも中止になり目標を失って今後の学生生活にも影響が出ているのではないかと思います。私は努力したもののインターハイには出られませんでした。しかし卒業して20年経った今、あの努力した日々を無駄だったなど思うことはありません。むしろ楽しい、輝かしい日々だったと思っています。在校生の方たちも今の理不尽な状況に物ねること無く、卒業して何年後かに楽しかったな、燃え尽きたなど思えるような学生生活を送ってもらえたらと思います。水泳部では年に一回OB会を行っています。今年のOB会は吉本先生が定年退職されるということで多くのOBが参加を表明してくれていましたが、コロナウィルスの流行に伴い、延期という形を取らざるをえなくなりました。来年には今回できなかった分も併せて盛大におこないたいと思っています。OBの皆さま、参加よろしくお祈りします。



啓聖会京都支部より

常翔啓光学園の生徒の皆さまはもとより、同窓生の皆さま、教職員と関係各位の皆さまには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、大きな変化を余儀なくされていると存じます。教育界では、様々な行事の中止や延期が相次ぎ、長期の休業で授業時間の確保が課題となっています。また、社会活動全体に多くの好ましくない影響があり、まだ続くことが予測できます。しかし、あえてこれを良い機会だと考えます。もちろん、不幸にも感染しお亡くなりになった方々への心からのお悔やみと、闘病中の皆さまの回復を願いながらです。人から感染しないための行動は、人へ感染させないための行動でもあり、他人への思いやりでもあります。限られた時間で勉学に励み、目標を成し遂げた時の充実感、想像をはるかに超えることでしょう。

前向きに人生を過ごすため、同窓会はかけがえのない大切な場です。友と語らう機会があつてこそ、この荒波を乗り越えることができます。同窓会の更なる発展を願います。

啓聖会京都支部 副支部長 上倉 淑敬

決算報告

2019年度決算 自2019年4月1日 至2020年3月31日

■収入の部

収入科目	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	6,928,497円	6,928,497円	0円	
会費	0円	470,000円	470,000円	同窓会等会費
学園教育振興会援助金	4,120,000円	4,120,000円	0円	57期生会費(412名)
雑収入	100,000円	0円	-100,000円	御祝儀等
受取利息	0円	63円	63円	預金利息
総計	11,148,497円	11,518,560円	370,063円	

■支出の部

支出科目	予算	決算	増減	備考
印刷費	700,000円	820,139円	120,139円	会報印刷 成人式案内
通信費	400,000円	467,920円	67,920円	会報発送・ホームページ費用
活動費	700,000円	1,250,951円	550,951円	成人式等
在校生支援金	700,000円	758,312円	58,312円	クラブ寄付等
57期生同窓会支援金	1,600,000円	1,572,023円	-27,977円	60周年記念事業費
予備費	7,048,497円	6,649,215円	-399,282円	事務費193,948円 雑費27,000円 次年度繰越金6,428,267円
総計	11,148,497円	11,518,560円	370,063円	

2020年度予算案 自2020年4月1日 至2021年3月31日

■収入の部

収入科目	予算
繰越金	6,428,267円
会費	4,200,000円
雑収入	100,000円
総計	10,728,267円

■支出の部

支出科目	予算
印刷費	800,000円
通信費	400,000円
活動費	700,000円
在校生支援金	700,000円
58期生同窓会支援費	1,600,000円
全国大会出場支援金	6,528,267円
総計	10,728,267円

ワンダーフォーゲル部

新型コロナウイルス禍で部活動も自粛や大会の中止等で満足な活動ができず、ストレスの溜まる年になってしまいました。ワンゲル部OB.OG会も、新OB.OG歓迎会を見送り今年はまだ一度も活動を行っていません。長い歴史をもつワンゲル部OB.OG会ですがこんなことは今迄にはありませんでした。

私は、創部5年目に入部した古参者です。当時の活動は山歩きをするのが目的で、夏合宿は北アルプス、秋合宿は近郊の山、春合宿は梅池でスキーでした。新人練成という新入生にとって過酷な合宿もありました。その他に毎月日帰りでハイキングにも行っていました。当時の装備は現在のものと比べると重く、6人用テントだけで約10Kg、調理に欠かせない火気はホエープスというガソリンストーブで圧力を掛けてガソリンを気化させたガスに点火して調理をしました。個人装備のシュラフや着替え、水や食料を合わせると1週間の合宿で40Kg程の荷物になり、それをリュック(キスリング)に入れ登山道を歩くというものでした。

創部40周年の頃からOB.OG会の幹事を務め、8年前から会長になり尽力してまいりましたが古希を迎えるに当たり今年末に、40歳後進の優秀な後輩に会長をゆずることになりました。

50年以上もの長い間、ワンゲル部創生期の5人のOB達が会長を務めてきました、これはいかにも古くさいことです。

来年からは新しいOB.OG会が始まります。長い歴史のある伝統のワンゲルOB.OG会ですが、ますます発展し未永く活動が続いていくことを望みます。

ワンダーフォーゲル部OB会会長
中西 寛人(7期生)



音楽部

13年ほど前の啓光学園50周年記念以降、音楽部のOBが演奏させていただく機会が増え、近年では、1月に成人を祝う啓聖会の祝賀会での演奏が定例になりました。そこで、昨年、啓光祭にあわせた総会で正式に啓聖会啓光学園音楽部OB会が発足しました。

今年も啓光祭でも演奏を予定していましたが、啓光祭は中止に。そこで、OB会総会は会場を「メセナひらかた」5階視聴覚室に移し、8月29日(土)15時～17時の予定で準備中です。その後の懇親会も予定しています。音楽部OBの皆さま、幅広い年齢層の異業種交流にふるってご参加ください。

30期生 右近潤一



2019年度 進路結果報告

常翔啓光学園中学校・高等学校 進路指導部長 川端 健介

2019年度 大学等合格状況 (5月20日現在)

国公立	合計	8私大	合計
京都工芸繊維	2	関西	29
大阪	1	関西学院	11
神戸	4	同志社	17
奈良教育	1	立命館	37
和歌山	3	小計	94
北見工業	1	京都産業	35
秋田	2	近畿	78
東京工業	1	甲南	7
富山	1	龍谷	59
福井	1	小計	179
三重	1	8私大合計	236
岡山	1		
山口	1	学園内大	合計
徳島	1	大阪工業	211
高知	1	摂南	665
佐賀	1	広島国際	24
京都府立	1	小計	900
大阪府立	2		
大阪府立	5	ほか私大	合計
神戸外国語	3	長浜バイオ	3
奈良県立	1	大谷	7
創路公立	1	京都外国語	3
新潟県立	1	京都看護	2
公立諏訪東京理科	1	京都光華女子	6
広島市立	2	京都女子	11
下関市立	1	京都精華	4
小計	39	京都先端科学	6
防衛大学校	20	京都造形芸術	4
防衛医科大学校	0	京都橘	8
		京都美術工芸	2
		京都文教	5
		その他私立大学	303

今年度より進路指導部を担当しております。よろしくお願いいたします。2020年3月の卒業生は408名(昨年度は458名)でした。このコロナ禍で卒業式は各HR教室で実施され、また、大変な状況下で大学受験が実施されました。また、今年度新入生は360名で中学校・高校併せて総生徒数1405名となりました。入学式は動画での式典となり、やっと6月15日以降、通常の学校生活に戻りつつあります。そのような状況下においてもここ数年1400名規模の学校として推移し大阪府下でも有数の生徒数を誇る学校となっております。卒業生408名のうち375名(91.9%)が大学進学を希望し、そのうち355名(87%)が大学に進学を決めました。卒業後の進路も多様化しており、30人が専門学校へ進学しました。

大学合格者数の詳細は、国公立大学に39名で、過去最高の合格者数となりました。難関の大学では、東京工業大学工学院(現役)1名、大阪大学医学部看護学科(現役)1名、神戸大学には4名合格し、国公立大学医学部医学科には神戸大学(既卒)1名、徳島大学(現役)1名、合計2名医学部医学科に合格し進学しました。また、関関同立大94名、産近甲龍大179名という結果となりました(過年度生を含む合格者延べ数)。学園内大学へは106名が進学し、その内訳は大阪工業大学43名、摂南大学48名、広島国際大学15名が進学しました。本校のスクールメリットを最大限に活用し進学する生徒も増えてまいりました。

今年度は、大学入試改革が実行される1年目の年で、昨年度の卒業生は浪人しない、できないという強い意志があったように思われます。その気持ちが報われ大学進学希望者の95%が現役で大学に進学しこれまでになく進学率となりました。また、今年度の高3生は、コロナ禍で不安な日々を送っています。不安を解消するためには、3月の最後まで受験勉強することを決意し、日々できることをコツコツとしていくことが合格への近道であると考えます。本校の強みは生徒と担任の先生との面談機会が多いことです。休み時間や昼休み、放課後になれば職員室や職員室前のフリースペースに生徒はあふれかえります。つまり、担任の先生方は生徒一人ひとりベストな進路希望を叶えるべく、常に面談を通して生徒の志向を把握して行きます。成績や偏差値だけで画一的な進路指導を行っていません。生徒の“主体性”を大切に進路指導しており、これは、本校の良き伝統でもあります。生徒の悩みなどを聞いてあげることで

きっとこの状況を乗り越えることができると我々教員は確信しております。

今年度は様々なことで節目の年となります。「大学入試センター試験」は『大学入学共通テスト』にかわる節目になり、英語は「読む・聞く・書く・話す」の4技能が試され、また生徒の主体性を評価する推薦入試など新たな大学入試に変化することになります。そして、このコロナ禍でICT教育を実践し、臨時休校期間は動画授業を実施してきました。さらに、進路ガイダンスも動画で配信し、新しいことに私たちが試行錯誤し挑戦し続けています。ますます多様化する大学入試に向け、ますますきめ細やかな進路指導を心がけていきたいと思っています。同窓生の皆さまにおかれましても母校のさらなる飛躍を期待していただくとともに、ますますのご支援をうけたまわりますよう、よろしくお願い致します。